

令和6年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(潟上市)

1 市の概要(人口 31,430 人)※令和6年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和6年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1 園	1 園	4 園	2 か所	0 園	0 園	6 校

その他:小規模保育所2 事業所内保育施設1 認可外保育施設5

※令和6年8月1日～小規模保育所3 事業所内保育施設0 認可外保育施設5

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
(1) 各園の形態や地域性を生かした教育・保育に配慮し、質の向上につなげていく支援の在り方についての検討と指導体制の構築が必要である。 (2) 市幼保小連携理解推進事業のもと、相互理解は進んできているが、担当学年以外の職員も含めた全職員の意識については不十分である。 (3) 就学前施設と小学校の職員双方の「育ちと学びの円滑な接続」に対する共通理解が必要である。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)
令和元年度以前は、市に運営相談員を配置し各園の保育指導にあたっていたが、本補助事業を受け市全体の課題の解決に向けて園種を超えて学び合う体制の構築に努めてきたことで、園全体で保育改善に努めようとする意識の変容が見られるようになってきた。 また、県との連携により本市アドバイザーの育成支援が図られたことで、各園への適切な指導につながった。今後は、教育課程の編成により深く関わり、小学校への円滑な接続に向けた事業の推進に努め、市全体の幼児教育の質の向上を図る。
主な内容(3年間)
(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実 教育委員会教育総務課に教育・保育アドバイザーを配置する。福祉保健部子育て応援課と連携し、円滑な就学に向けた事業を実施する。 (2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援 市内各就学前施設への巡回訪問と要請訪問による指導と保育者との個別面談による課題の把握と解決のための支援を行う。 (3) 専門性の向上のための研修の充実 各施設の課題に対する研修と研修リーダーの育成、公開保育研究会を実施し広域的に学び合う体制を構築する。 (4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実 各小学校区での相互職場体験、情報交換、合同研修会を実施する。架け橋カリキュラムの作成や指導計画・スタートカリキュラムの改善を図る。 (5) 県との連携体制の確保 就学前教育推進協議会及び教育・保育アドバイザー連絡協議会に参加するとともに、市教育・保育アドバイザー育成のための県指導主事及び県教育・保育アドバイザーの訪問による助言や支援を受ける。

年度別重点	
令和4年度	園内研修の充実、相互職場体験の質の向上
令和5年度	架け橋期カリキュラムの作成、園同士の情報交換等の体制構築 園・小学校の職員の合同研修（幼小連携の意識を高める）
令和6年度	架け橋期カリキュラムの実践・評価・改善、架け橋期の保育・教育の質の向上 相互保育・教育参観、子ども交流の充実

4 令和6年度の詳細

目 的
小学校と就学前施設が、教育・保育課程等の相互理解を図り円滑な接続に向けて連携を推進するための事業を実施し、学びの連続性を保障するための体制の構築を図る。 園訪問を通して園内研修の充実と保育の質の向上を図る。
実施内容及び実施状況(中間)
1 教育・保育アドバイザーによる就学前施設への支援 ○訪問により各園の実態や課題を把握し、教育・保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもち、各園の教育・保育の質向上を目指す。 ・訪問支援 (市に配置されている特別支援教育専門の教育支援アドバイザーも園訪問して、必要な支援等について助言する) ・主体的な園内研究への支援と助言 ・体力向上事業（保育士同士の研究ネットワークづくり、基幹園への助言等） ・研修リーダーの育成 ・就学前施設の連絡会の実施（施設間のネットワークづくり） ・園主体の就園連携合同研修会の実施、園主体の運営となる仕組み作り 2 専門性向上のための研修の充実 ○園訪問等で把握した課題をもとに、市全体の課題に対する研修等を実施する。園の形態の区別を超えて学び合う体制を構築し、保育者の専門性の向上を図る。 ・特別支援教育についての研修 園経営、教育・保育計画への特別支援教育の視点 担任・加配保育士の悩みを聞き取り、課題解決につながる研修の実施 専門機関との連携（市教育支援アドバイザー、天王みどり学園、医療・福祉機関） ・キャリアステージに応じた研修会の実施（ミドルリーダー、男性保育者、保育補助等の研修） ・公開保育研究会（実施園6園） ・保育実践研修会（市内全就学前施設対象） 3 小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実 ○市幼保小連携理解推進事業を実施し、小学校への円滑な接続を図る。 ・相互職場体験の質の向上（全小学校区で実施、教育・保育アドバイザーの同行） ・児童・園児の交流（好事例の紹介、交流に向けた事前・事後の連携、検証） ・相互理解を深めるための、園の公開保育への小学校教員の保育参観・協議への参加、園職員の小学校の研究授業の参観・協議への参加又は生活科の授業参観の促進 ・幼保小合同研修会の開催（年2回 先進市町村の取組から学ぶ） ・幼保小連携便り（月1回発行） 4 接続期カリキュラムの作成、実践と評価、改善 ・第Ⅰ期（5歳児10月～小学1年7月）の実践と評価

- ・第Ⅱ期（5歳児4月～9月、小学1年8月～3月）の作成
- ・市内の学区の好事例の紹介
- ・他市町村の取組についての情報収集
- ・園と小学校が行うカリキュラムの作成、評価、改善作業への教育・保育アドバイザー参加・助言

5 県との連携体制の強化、他市町村とのネットワークの構築

○他市との情報交換、先進市の視察訪問、県との連携などアドバイザーの育成支援により、本市事業を円滑に進める

- ・県アドバイザーの訪問指導による市教育・保育アドバイザーの育成支援
- ・県幼児教育推進協議会及びアドバイザー連絡協議会への参加
- ・他市アドバイザーに学ぶ研修会

（1）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

①特別な支援を必要とする子どもへの支援の視点からの連携の充実を図る。

- ・教育委員会と子育て応援課で実施されている乳幼児検診、5歳児相談（年中児対象）、専門検査員による園訪問（4・5歳児対象）、わくわく教室（5歳児対象の幼児通級教室）、就学に向けた保護者相談、ことばの検査（小学1年対象）等の事業の目的の再確認と共有、課題の見直し等を行った。
- ・子どもの情報を共有し、切れ目ない支援へつなげる体制づくり。

②園内研修を担当する教育委員会と、施設管理・職員の勤務等を担当する子育て応援課との連携

- ・園での施設面・保育面の課題や、職員一人一人の思いなどを情報共有しながら、支援していく体制づくりを進める。
- ・市内全就学前施設の管理職研修会を実施し、就園連携に係る話合いやテーマ別研修、情報交換等を行い、マネジメント力向上や就園連携の充実を図る。

○園と小学校で作成する特別支援に関する資料の様式を統一することで、職員の負担軽減を図るとともに、小中学校への引継ぎ資料としても活用できるようになった。

●△職員が変わっても、連携が持続するような仕組み作りが必要。

（2）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

①園訪問により各園の実態や課題を把握し、保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもつことで、各園の教育及び保育の質の向上を図る。

- ・市内就学前施設への巡回訪問と要請訪問の実施。
- ・園内研修や公開保育への支援。
- ・個別相談の実施。
- ・ケース会議への参加。
- ・就園連携事業の推進。
- ・小学校教育との円滑な接続に向けた支援。

②公立園の園長会議や就園連携合同研修会等に参加し、教育課程や園内研修、幼保小連携等について助言するとともに、事業の共通実践事項の周知を図る。また、園長や主任からの情報や意見を吸い上げ、園訪問や市主催研修等に生かすようにする。

- ・園長会議への参加、情報提供、助言（月1回）
- ・主任会議への参加、情報提供、助言（随時）
- ・就園連携合同研修会（4月、12月、2月）
- ・小規模保育施設連絡会（4月、12月、2月）

◇令和6年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（潟上市）

派遣実績 計 15施設／全15施設 245回	
回数	・保育所：公立1園（24回） 私立1園（8回） ・幼保連携型認定こども園：公立4園（118回） ・幼稚園型認定こども園：私立1園（7回） ・その他の施設：小規模保育所2か所（14回）、認可外保育施設5か所（28回）、事業所内保育施設1か所（5回） ・小学校：6校（41回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、5園（75回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、5園（36回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、5園（122回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、6園（52回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、15園（79回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、5園（5回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校6園（49回））
理由	・継続した園訪問により、各園や保育者の課題に沿って支援をし、保育の質の向上を図るため。 ・就学前教育から小学校教育への円滑な接続に向けて、就学前施設と小学校の教職員が互いに理解を深め、幼保小連携の推進を図るため。

○保育参観、園内研修ともに、子どもの姿や保育の意図について自分の考えや思いを積極的に話す保育者が増えてきている。特に、園内研修で率直に語り合う風土が醸成されてきており、意見交換を通して他者から刺激を受けながら保育改善や園内研修の評価・改善に取り組んでいる。また、継続的な訪問により見られた子どもの育ちや保育者の変容を随時保育者や管理職に伝えたり、研修後の管理職や研究リーダーとの話し合いを大切にしたり等、職員の成長や園の成果・課題を共有することで、今後の園運営や研究の方向性を確認してきた。

○保育参観の振り返りでは、子どもが主体的に遊ぶ姿や学びの過程をアドバイザーが撮影した写真で可視化しながら話し合いを進めている。また、保育者も、子どもの遊びや活動のプロセスについてICTやドキュメンテーションを活用することが増えてきた。子どもの学びの「見える化」により、保育者の子ども理解がさらに深まったり、保育への手ごたえが高まったりしている。

●△園内研修の話し合いの深め方について、園全体で話し合いながら保育者自身が主体的に考えていけるよう、支援していきたい。

（3）「専門性の向上のための研修の充実」

① 市主催保育実践研修会の開催

ア 保育実践研修会①

目的：保護者支援・子育て支援に関する理解を深め、保護者の気持ちに寄り添ったよりよい支援につなげる。

日時：令和6年5月23日（木）

参加者：18名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「保護者支援と『子どもをみる…』とは」 演習

講師：聖園学園短期大学 教授 蛭田 一美 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足18名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

- ・保護者を支援する対象ではなく、一緒に子どもを育て、連携する対象として捉えることの大切さを学んだ。子どもの育ちを丁寧に伝えることを繰り返し、相談しやすい存在となれるよう心掛けていきたい。
- 「保護者支援・子育て支援」は、昨年度の研修アンケートでニーズの多かった内容である。
- （3）⑤ア保護者対象の講話会「子育て支援 にこにこ広場」と併せて実施した。
- これまでの保護者対応について自身を振り返ったり、保護者の背景や本音を知ろうとすることの大切さに気付いたりする等、保護者支援の在り方への理解を深めることができた。

イ 保育実践研修会②

目的：乳幼児の発達の過程を踏まえ、養護と教育が一体となった保育について理解を深める。

日時：令和6年5月24日（金）

参加者：14名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「子どもの見方で保育が変わる～食育の視点から保育の質を高めるには～」
演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 由利美奈子 氏
幼保指導員 阿部 真理 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足14名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

- ・食事はおなかを満たすということだけでなく、心を満たすことにもつながる。家庭での様子を知ること、言葉をかけながら食べさせること、食事の環境を見直すことなどを職員全体で考えていきたい。
- 「食」を切り口としながらも、講話や演習から、子どもの生活全体や家庭との連携を見直す機会になった。
- 未満児担任対象の研修会であったが、小規模保育施設からの参加者も多く、研修内容に対する関心の高さが伺えた。

ウ 保育実践研修会③

目的：3～5歳児の発達の過程を踏まえ、保育記録や指導計画・評価について理解を深める。

日時：令和6年6月4日（火）

参加者：8名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「3～5歳児の指導計画～子どもの内面理解とは～」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 白畑 展子 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足8名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

- ・一人一人の子ども理解を深め、記録し、計画に反映させていくことの大切さを学ぶことができた。
- ・グループ演習では、自分と同じ読み取りや、自分が気付かなかった読み取りを聞いたりとすることで、楽しく学ぶことができた。複数担任で保育していることの意味を改め

て見直し、共通理解をしていくために計画・実践・評価・反省をみんなで行っていき
たい。

○動画を見ながら話し合う演習では、様々な視点から意見を交換し合い、互いに刺激を受け
ている場面が多く見られた。昨年度と比較し、より深く自分の考えを他者に伝えられる保
育者が増えてきた。

エ 保育実践研修会④

目的：乳幼児の発達の過程を踏まえ、養護と教育が一体となった保育について理解を深める。

日時：令和6年6月14日（金）

参加者：6名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「生活の中で育つこと、育てたいこと～「食育」の視点で保育を見直す～」

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 今野 菜穂子 氏

幼保指導員 阿部 真理 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足6名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

・食事は空腹を満たすだけでなく、人間的な信頼関係の基礎をつくる営みでもあると
いうことが、まずは目からうろこだった。小規模園は、園全体や保育者それぞれの
動きが見えることが強みであることを自信にして全職員で子どもたちを見ていき
たい。

○小規模保育施設に所属している職員を対象とした。小規模保育施設の職員は、研修の機会
や悩みを共有したり他園の職員と交流したりする場が少ない。今回の研修は、自身の保育
への向き合い方を振り返ったり視野を広げたりする機会となった。

○日頃悩んでいることを事前アンケートで集約し、指導者の先生から助言をいただいた。明
日の保育につながるアドバイスは、意欲向上につながった。

オ 保育実践研修会⑤

目的：特別な配慮を必要とする乳幼児の理解と支援の在り方について理解を深める。

日時：令和6年7月22日（月）

参加者：15名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「特別な配慮の必要な乳幼児の理解と支援について」 演習

講師：秋田県総合教育センター 主任指導主事 島津 憲司 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足15名 ②やや満足0名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

・気になる行動は、周囲からの働き掛けで変化していくという話を聞き、適切な対応の
重要性を改めて感じた。また、担当者だけでなく、関わる全ての人が同じように対応
することも大切だと感じた。園全体での情報共有、共通理解を大切にしていきたい。

○担任や支援児担当、特別支援教育コーディネーターが参加した。子どもの気になる行動の
捉え方やABC分析を基にした支援の流れ、インクルーシブな保育につながる支援につ
いて学ぶことができた。

○特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方で悩んでいる園も多い。講話の資料を全園に
配付し、園内研修に活用してもらうようにした。

カ 保育実践研修会⑥

目的：男性保育者が保育参加や自園の課題解決のための研修を通して、保育実践力やマネジメント能力の向上を図る。

研修① 日時：令和6年8月9日（金） 大仙市保育者3名と合同研修

場所：出戸こども園

天王こども園

潟上市役所4階大会議室

内容：午前は2班に分かれて実践研修、午後は全体協議

研修② 日時：令和6年12月5日（木）

場所：昭和こども園 2階会議室

内容：これまでの実践の振り返り、情報交換

参加者：4名

＜参加者アンケート結果＞

① 満足3名 ② やや満足0名 ③ やや不満0名 ④ 不満0名

＜参加者の感想＞

- ・参観だけでなく一緒に保育することで、他の先生方の子どもへの関わり方や環境構成、子どもの反応を肌で感じることができた。
- ・それぞれの抱える悩みや課題、感じていることなどの共有をとおして、同じ悩みや考えをもつ人がいるという安心感を得ると同時に、他の先生がどのように対応しているかを聞くことができ視野が広がった。

○昨年度に引き続き、大仙市教育・保育アドバイザーや大空大仙男性保育会の協力を得て、合同の研修会を開催した。共に保育参加することで、他の保育者の子どもへの関わり方や言葉かけを実践から学ぶことができた。

○協議をとおして、より客観的な目で自身の保育を振り返ったり今後の展望を考えたりする機会となった。

○△次年度の研修については、保育者たちが研修内容を立案した。自分たちで課題を見つけて研修しようとする姿勢を大切に、今後も思いを話し合える場をつくっていきたい。

キ 保育実践研修会⑦

目的：園内研修の一層の充実を図るため、研修の進め方や手法に関する専門性を高めるとともに、研修リーダーとしての資質向上を図る。

日時：令和6年9月10日（火）

参加者：9名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「園内研修の充実とファシリテーターの役割について」 演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 今野菜穂子 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足9名 ② やや満足0名 ③ やや不満0名 ④ 不満0名

＜参加者の感想＞

- ・園内研修には様々な方法がありながらも、話合いでの学びを確かなものにしたりと園全体で共通意識をもったりするための必要なポイントを学ぶことができた。
- ・演習の回数を重ねるにつれて、どんどん話しやすくなっていったと感じた。自園でも、先生たちが多くの意見を出してくれるようになってきているので、今後はよりのめを絞った話合いにしていけるよう、ファシリテーターとしての役割を担っていきたい。

○研修会で研究協議の基本的な進め方を学んだことで、その後の園内研修の改善の参考にする園が多く見られた。

△昨年度受講していない主任や職員を対象としたが、より多くの職員が参加する必要性を感じた。継続して開催していきたい。

ク 保育実践研修会⑧

目的：保育補助者として、子どもの発達理解と内面理解を深め、保育に向かう基本的な態度について確認し、各職員の資質の向上を図る。

日時：令和6年9月24日（火）

参加者：40名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「子どもの健やかな育ちのために」 演習

講師：聖園学園短期大学 准教授 加藤 順子 氏

＜参加者アンケート結果＞

① 満足38名 ②やや満足2名 ③やや不満0名 ④不満0名

＜参加者の感想＞

- ・子ども一人一人をよく見て、耳を傾け、現在の在りのままを受け止めていきたい。また、子どもが試行錯誤しながら自分の力で乗り越えられるよう見守っていききたい。
- ・「愛着(アタッチメント)」について詳しく知ることができた。「甘え」させていいのか、「甘やかし」になっていないか、いつも現場で悩んでいた。講話はとても参考になった。

○園長会の協力を得て、ほとんどの保育補助職員が研修会に参加することができた。

○講話やグループの話し合いによる演習をとおして、保育補助職員の子どもの理解や意欲を高めることができた。

△子どもの育ちを園全体で支える観点からも、今後も保育補助職員の研修の機会を大切にしていきたい。

※保育実践研修会全般の成果と課題について

○研修内容については、園の管理職・保育者の要望を聞くとともに、園の課題を洗い出し、その解決につながる研修を実施することができた。さらに、園内研修や特別支援教育に関する研修には主任の参加を促し、園運営や職員の助言に生かせるようにした。

△研修に参加した職員からは、継続してほしい研修や今後参加してみたい内容について様々な要望があった。職員の声や園長会での意見を集約するとともに、園訪問や指導主事訪問等で課題となった点について精査し、市として次年度必要な研修内容を検討していきたい。

②公開保育研究会、公開保育の開催

ア 公開保育研究会

期日：10月18日（金）

会場：昭和こども園

参加者：5名 小学校職員1名

内容：保育参観、全体会（園内研究概要説明 保育の振り返り）、協議会、指導助言

指導者：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 石山 潤 氏

幼保指導員 尾形 眞紀子 氏

イ 公開保育

ア) 期日：7月3日（水）

会場：若竹幼児教育センター

参加者：9名

内容：保育参観、協議

イ) 期日：6月28日（金）

会場：追分幼稚園附属追分ベビー園

参加者：11名 小学校職員1名 評議員5名

内容：保育参観、協議

ウ) 期日：7月10日（水）

会場：追分保育園

参加者：12名

内容：保育参観、協議

エ) 期日：7月17日（水）

会場：天王こども園

参加者：12名 小学校職員1名

内容：保育参観、協議



【公開保育での協議】
小学校職員も保育参観・グループ協議に参加。

○今年度はすべての公開保育において、参観者と公開園職員でテーマに基づいての協議を実施し、活発な話し合いが行われた。自身の保育を振り返ったり今後の参考にしたりしようとする声がアンケートに多く寄せられ、日常の保育改善への意欲の高まりが感じられた。地域の保育者と保育を振り返ったり語り合ったりする機会を得ることで、共に学び合う関係性の構築や潟上市全体の保育の質の向上につながっていている。

○△小学校の職員の保育参観や協議への参加が増えてきた。公開保育に参加できなかった小学校職員が、園の計画訪問等を活用し保育参観や協議に参加するケースもあった。今後も管理職や1年生担任だけでなく多くの小学校職員が保育参観や協議を通して子どもの育ちや学びを語り合えるように、さらに働きかけを工夫していきたい。

③保育実践研究「体力向上事業」の実施

ア 基幹園での実践

ねらい：保育者や友達と一緒に様々な運動遊びを楽しみながら健康な身体を育む。

内容：運動遊びを取り入れ、乳幼児期の心身の発達を促す。

発達段階を考慮した姿勢の維持の重要性を知り、保育実践に生かしていく。

様々な体の動きを取り入れた遊びを家庭に発信し、身体を十分に動かして遊ぶ大切さを知らせていく。

講師：ジュニアスポーツ指導員 本庄 ゆかり 氏

研修日程：令和6年6月～令和6年11月まで、講師による園児への実技指導や職員への講話・実技指導を7回行う。

対象：0歳児～5歳児、職員

内容：6月4日 実技（以上児の運動遊び） 参加者4名

6月25日 実技（以上児の運動遊び） 参加者4名

7月11日 実技（未満児の運動遊び） 参加者4名

8月20日 実技（以上児の運動遊び） 参加者4名

8月27日 講話「姿勢を保持することの大切さについて」 参加者22名

（内 小学校1名 子育て支援センター1名）

9月3日 実技（未満児の運動遊び） 参加者5名

公開保育：期日11月14日（木）予定

会場：出戸こども園

参加者：12名 小学校職員1名

内容：保育参観、協議

イ 基幹園以外の公立4園での実践

各園の実態に応じ、園の方針や取組方法を計画し、指導計画に位置付けて実践する。

ウ 体力向上担当者会議の実施

ねらい：各園の体力向上担当者が自園の実践を持ち寄り、情報交換をしたり成果や課題について検討したりすることで、市内の子どもの体力向上と職員が広域的に学び合う体制を構築する。

期日：5月1日、8月20日、1月20日

○担当者会議では、各園の実践を共有している。実技を通しての研修は、環境設定や遊びの工夫のヒントになるとともに、保育者の気付きも多いとの報告があった。また、一つの学年で行った運動遊びが他学年に波及している園も多い。

○実技研修の参加者が、自園の職員に様子を伝えることが難しい場面もあることから、今年度から実技の動画を撮影し情報共有をすることとした。ICT活用により、全職員が研修の様子を実感できるようになり、運動遊びや環境づくりの参考にすることができた。



【体力向上実技研修】
ICTを活用し、自園で実技研修の共有化を図った。

④小規模保育施設と公立園・幼稚園との連携

ア 小規模保育施設連絡会の開催 4月18日（木）7名 12月2日（月）9名

- ・小規模保育施設の園長等と子育て応援課主任、教育・保育アドバイザーで意見交換や情報共有をする。
- ・連携園との関わりについて、実態把握や今後のスケジュールを確認する。

イ 就園連携合同研修会の実施

4月18日（木）14名 12月2日（月）16名 2月21日（金）15名

- ・今年度の潟上市「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」の説明
小規模保育施設と連携園で、今年度の連携計画を作成する。

ウ 相互保育参観の実施

- ・連携する園で相互に保育参観をし、
保育内容の情報交換や情報共有を図る。

エ 園児の交流の実施

- ・連携する園で、子どもたちの実態や職員間の話し合いを基に、子どもの交流する場を設定する。

○就園連携合同研修会では、市内全就学前施設の園長が参集し、今年度の「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」内容を確認したり、連携計画を作成したりした。事業に対する理解や市の方針、今後の取組について共通理解を得ることができた。

○相互保育参観や園児の交流については、各園でアイデアを出し合いながら実践している。連携園からの提案に沿って交流するだけでなく、小規模保育施設と連携園の担当者が内容を話し合い、子どもたちが関わりながら準備し交流することで、互いの子どもの意欲を高めた取組も見られた。幼保小連携における子どもの交流活動の変化(ねらいの共有、子どもの実態や声を生かした内容、職員の話し合いの充実)や職員の意識の変容が、就園連携にもよい影響を与えていると思われる。

△就園連携合同研修会については、今後も子育て応援課と教育総務課が連携して両課でサポートはするものの、徐々に運営のリーダーシップを連携園の管理職に担ってもらう方向で進め

ていきたい。

⑤保護者支援と子育て支援

ア 潟上市「子育て支援 にこにこ広場」

目的：様々な悩みや不安を抱えながら子育てをしている保護者へ、専門家の講話等をおして、乳幼児期の発達や子育てで大切にしたいことなどを伝え、子育て・保護者支援につなげる。

日時：令和6年5月23日（木）

参加者：出戸こども園3～5歳児保護者

就学前施設職員(管理職)5名

場所：出戸こども園 ホール

内容：講話「どう過ごされていますか？子どもの『はじめの100か月』」

講師：聖園学園短期大学 教授 蛭田 一美 氏

イ 保育実践研修会① (3)①ア 参照

(4)「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

小学校教育との円滑な接続に向けて

①架け橋カリキュラム担当者連絡会の実施

目的：幼児期及び幼保小接続期（架け橋期）の教育の質的向上をめざし、幼保小の育ちと学びの円滑な接続の在り方について、相互理解を深めるとともに、今年度の架け橋カリキュラム作成・実践について確認する。

期日：5月9日（木）

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：小学校の管理職と1年生担任等 12名

園の園長または主任と5歳児担任等 15名

内容：市担当説明「育ちと学びをつなぐ幼保小の円滑な接続のために」

小学校区ごとのグループ協議

1年生の様子について

4月のカリキュラムの実践について

今年度の連携に係る取組について



【市担当者からの説明】
今年度の重点やカリキュラム作成について説明し共通理解を図った。

②第1回就学前・小学校等潟上市合同研修会の実施

目的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資質向上を図る。

期日：7月30日（火）

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：小学校の管理職と1年生担任等 12名

園の園長または主任と5歳児担任等 15名

内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」

講師 大館市教育委員会教育研究所 副主幹 山本 多鶴子 氏

小学校区ごとのグループ協議 架け橋カリキュラムⅠ期（小学校）の評価・改善

③第2回就学前・小学校等潟上市合同研修会の実施

目的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資

質向上を図る。

期日：1月7日（火）

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：小学校の管理職と1年生担任等 12名

園の園長または主任と5歳児担任等 16名

内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」

講師 大館市立桂城小学校 校長 浅野 直子 氏

小学校区ごとのグループ協議 架け橋カリキュラムⅠ期（園）の評価・改善

④架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員会の実施

期日：2月28日（金）

会場：潟上市役所 2階第1第2会議室

参加者：有識者（潟上市教育委員会教育長職務代理者）

福祉保健部子育て応援課施設運営支援班課長補佐兼班長

小学校校長 小学校教頭 小学校1年担任

園長 園主任 5歳児担任

教育委員会教育総務課指導主事

教育・保育アドバイザー

内容：（報告）架け橋カリキュラムの作成・実践の進捗状況及び検証結果について

（協議）「架け橋カリキュラムを教育・保育の質の向上につなげるためには」



【架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員会】
令和6年度の取組の報告と協議を行った。

⑤就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

ア 小学校区連絡協議会

5月24日 東湖小学校・天王こども園

6月3日 2月27日 追分小学校・追分保育園・出戸こども園・追分幼稚園

6月4日 2月14日 出戸小学校・出戸こども園・でと保育園

6月4日 3月5日 天王小学校・天王こども園（3月5日は、東湖小学校も参加）

6月7日 2月26日 大豊小学校・昭和こども園

6月19日 2月26日 飯田川小学校・若竹幼児教育センター

イ 相互職場体験

7月9日 出戸小学校

7月18日 東湖小学校

7月19日、8月1日 天王こども園

8月1日 追分保育園

8月7日 昭和こども園

8月20日 若竹幼児教育センター

8月27日 天王小学校

9月3日 追分小学校

9月17日 出戸こども園

10月1日 大豊小学校

11月8日 飯田川小学校

※園での職場体験では、園長によるオリエンテーション、0歳児～4歳児の保育参観を体験内容に含むこととした。

※小学校の職場体験では、2年生～6年生の授業参観、生活科の授業を体験内容に含むこと



【小学校での職場体験】
校長からの説明を受けながら、6年生の授業参観。

とした。

ウ 年度初めの小学校訪問・情報交換会及び小学校区連絡協議会

・架け橋カリキュラムⅠ(小学校)やスタートカリキュラムの実践状況や今後の取組についても話題とした。

エ 園児・児童の交流

・事前打ち合わせを実施し、互恵性のある交流活動が増えてきている。その場限りの交流ではなく、生活科の指導計画や園の活動計画の中に幼保小交流を組み込む実践もあった。

・交流活動の中に、子どもたちが、考えたり話し合ったりする場を設定することが増加している。

オ 保護者・地域への発信

・架け橋プログラムや幼保小連携、遊びを通した学び等について、学校だよりや学年だより、ドキュメンテーション等により保護者や地域に発信する園や小学校が増えてきている。



【園児・児童の交流活動】
1年生と5歳児の混合チームによる
リレー。肩を組んでの作戦タイム。

⑥架け橋カリキュラム作成・実践推進のために

ア 架け橋カリキュラム担当者連絡会 5月9日(木) (4)①参照

イ 第1回就学前・小学校等潟上市合同研修会 7月30日(月) (4)②参照

ウ 各学校区での話合い(架け橋カリキュラムⅡ期について) 10月～12月

エ 市指導主事、教育・保育アドバイザーによる研修会参加 11月1日(金)

大館市立桂城小学校参観

市指導主事、教育・保育アドバイザー

オ 架け橋プロジェクトモデル地区大館市訪問 11月18日(月)

大館市教育研究所副主幹、アドバイザーとの協議

市指導主事、教育・保育アドバイザー

カ 架け橋プログラム市町村訪問 12月9日(月)

キ 第2回就学前・小学校等潟上市合同研修会 1月7日(火) (4)③参照

ク 架け橋プロジェクトモデル地区大館市架け橋カリキュラム開発会議傍聴 1月17日(金)

市指導主事、教育・保育アドバイザー

ケ 大館市立釈迦内小学校授業参観 1月21日(火)

市指導主事、教育・保育アドバイザー

コ 架け橋プログラムプロジェクト委員会 2月28日(金) (4)④参照

サ 各学校区での話合い(架け橋カリキュラムⅠ期・Ⅱ期、スタートカリキュラムについて)
1月～2月

⑦特別支援教育の視点からの幼保小連携について

ア 年度初めの小学校訪問・情報交換会

1年生授業参観と情報交換、就学支援事業説明を行った。

参加者：管理職、1年生担任、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任等

市指導主事、教育支援アドバイザー、教育・保育アドバイザー

4月17日 出戸小学校

4月25日 大豊小学校

4月30日 追分小学校
5月1日 天王小学校
5月2日 東湖小学校
5月22日 飯田川小学校

イ 幼保小中の連携による切れ目ない支援体制の構築

ア) 特別支援教育コーディネーター連絡協議会

目的：・特別支援教育コーディネーターの役割を自覚し、支援を要する児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた適切な支援について協議することで、校園内の特別支援教育の充実を図る。
・市の特別支援教育の現状を共有し、幼保小中の連携を図り、切れ目ない支援体制の充実を図る。

日時：令和6年5月31日（金）

参加者：就学前施設職員16名 小中学校職員13名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話・演習「特別支援教育コーディネーターの役割について」

講師：能代市教育委員会 特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝 氏

イ) 支援員研修会

目的：市内就学前施設で支援を担当する保育士・保育補助と小・中学校に配置されている生活支援員に対して、役割や適切な支援の在り方等に関する研修を行うことにより、特別な支援が必要な子どもに対する支援の充実を図る。

日時：令和6年9月4日（水）

就学前施設職員：16名 小中学校支援員23名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「特別な教育的支援が必要な子どもの理解と対応について」

講師：秋田県教育庁中央教育事務所 指導主事 高橋 基裕 氏

ウ) 特別支援地区別連絡会

8月21日 天王南中学区

8月22日 天王中学区・羽城中学区

各小・中（管理職1名・特別支援コーディネーター1名）

各園長が出席し、特別な支援を要する子どもについて情報を共有する。

ウ 幼児通級教室（5歳児相談サポート事業）

市教育支援アドバイザーが園を訪問し、1回30分程度の活動を行う。

公立5園で実施。（17名）

エ 関係機関と連携したケース会議の計画的な実施

公立5園では、特別支援学校地域支援部と連携し、教育専門監を招聘しての年2回のケース会議を特別支援教育年間計画に位置付けた。指導助言を日常の保育や保護者との関係構築、就学指導に生かしている。

オ 部局間連携による事業の見直し・改善について

配慮を必要とする子どもの切れ目ない支援を行うために、子育て応援課健康支援班、施設運営支援班との連携を強化し、現在実施されている事業について見直しや改善を図った。

・9月5日 5歳児相談について

⑧ 架け橋プログラムに係るアンケートの実施

目的：市内における就学前教育と小学校教育との連携や接続の在り方について、幼稚園・保育

所・認定こども園等と小学校等の職員にアンケートを実施し、実態や成果・課題を把握し、今後の取組に生かす。

期日：アンケートⅠ…8月 アンケートⅡ…1月

対象：小学校教頭、1年担任

園主任、5歳児担任

⑨幼保小連携だより「かたっこすまいる」の発行(月1回程度)

- ・「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」における研修や幼保小連携の取組、就学前教育と小学校教育の相互理解・連携のための情報提供等を掲載している。
- ・架け橋カリキュラムの作成・実践について、各学校区の取組を紹介している。
- ・潟上市の全就学前施設(15施設)、全小学校(6校)、他市教育・保育アドバイザーに配付。

※小学校教育との円滑な接続全般の成果と課題について

○年度初めに架け橋カリキュラム担当者連絡会を実施し、幼保小の育ちと学びの円滑な接続の在り方について相互理解を図るとともに、今年度の架け橋カリキュラムの作成・実践について確認することができた。また、合同研修会①②において、架け橋カリキュラムの実践について評価したり改善案を話し合ったりすることができた。

○職場体験では、従来の5歳児や1年生での体験に加え、園での職場体験での園長によるオリエンテーション、0歳児～4歳児の保育参観、小学校の職場体験での2年生～6年生の授業参観、生活科の授業体験を実施した。子どもの育ちや学びのつながりをより実感したり理解したりすることができた。

○●授業参観や保育参観、相互職場体験、子どもの交流、事前打ち合わせ等を通して、幼保小の職員同士で話し合う機会が増え、子どもの育ちや学びについて理解が深まってきている。一方、小学校区により理解や取組に温度差が見られることが課題である。管理職に理解を求めたり連携したりしながら、小学校区の実態や強みを生かした連携が図られるよう支援していきたい。

○架け橋カリキュラムの内容や進捗状況、幼保小交流の様子を担当者だけでなく全職員で共有する場を設ける園が増えてきている。

○△架け橋プログラムに係るアンケートを8月と1月に実施した。担任の意識の変容が少しずつ見られる反面、連携やカリキュラムの実践等、学校区の抱えている課題やカリキュラム推進における悩みも明らかになった。今後も、架け橋カリキュラムの実践、スタートカリキュラムの改善、連携事業について、実態把握をしながら、学校区の話合いの過程を丁寧に支援していきたい。

○今年度の架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員会は、委員に有識者と市福祉保健部職員を加えた。実施状況の検証とともに、様々な立場から事例や意見を出し合うことができた。

△互いの教育に理解を深め、架け橋期の教育の充実のためには、就学前施設の園長や小学校の校長の理解が不可欠である。園・学校全体での共通理解が図られるよう、園長会や校長会と連携や協力をしながら推進していきたい。



【幼保小連携内容の共有】
5歳児担任が、1年生の授業参観の様子を説明し、園の全職員が共有。

(5)「県との連携体制の充実」

○昨年度末に幼保推進課指導主事と次年度の研修計画等について話し合う場をもち、助言をいただいた。課題を明確化し、取組を具体化することができた。

① 県主催協議会への参加

- ・アドバイザー連絡協議会 4月23日 6月25日 8月23日 10月24日 1月23日
- 他市アドバイザーとの話し合いや各地区の取組状況についての情報交換は、本市の取組の改善を図る上での参考となったり、園への関わり方のヒントになったりしている。
- 他市アドバイザーとのネットワークができたことで、情報交換のみならず、本市の研修会に他市の協力を仰いだり参考資料のやり取りをしたりすることができ、研修の充実を図ることができた。

② 県及び文部科学省主催研修会への参加

- ・ 架け橋プログラム説明会 4月10日
- ・ 架け橋プログラム研修会Ⅰ 4月23日
- ・ 園長等運営管理協議会 4月26日
- ・ 教頭・主任等研修会 5月17日
- ・ 就学前教育理解推進研究協議会Ⅰ 6月13日
- ・ 架け橋プログラム研修会Ⅱ 6月21日
- ・ 園長等運営管理協議会 8月29日
- ・ 就学前教育推進協議会 11月22日
- ・ 令和4～6年度幼保小の架け橋プログラム事業成果報告会 2月10日
- ・ 就学前教育理解推進研究協議会Ⅱ 1月30日
- 教育・保育内容の理解を深めたり、園訪問のアドバイスの参考にしたりすることができた。
- △架け橋プログラムに係る研修会の小学校職員の視聴が増えてきている。今後も校長会を通じて広報し、研修内容や先進的な実践を幼保小で共有していきたい。

③ 県教育・保育アドバイザーによる支援訪問

- ・ 昭和こども園 10月18日
- 園への関わり方や支援の仕方、研修会の進め方の他、多岐にわたる疑問や悩みについても指導・助言していただけることは、大変ありがたい。園の課題解決や助言、公開研究会の運営に生かすことができている。
- 子どもの育ちや保育者の具体的な姿から、保育者のよさや課題、さらなる保育力向上のためのヒントやアドバイザーの関わり方を懇切丁寧にご指導いただいた。直近の園訪問だけでなく、長期的な視点や潟上市全体を見据えての関わり方も考える機会になった。

④ 県指導主事計画訪問・要請訪問への同行

- ・ 天王こども園 7月11日
- ・ 追分保育園 7月26日
- ・ 出戸こども園 9月20日
- ・ 昭和こども園 10月8日
- ・ 若竹幼児教育センター 10月11日
- 計画訪問・要請訪問での園・保育者への指導・助言から、保育の見方や園の課題、課題解決に向けての支援の方法を学ぶことができた。訪問での指導助言を、その後の園訪問で確認したり話し合いに生かしたりしている。指導内容を園と一緒に考え、保育者の意欲や具体的な改善に結びつくようにしていきたい。

⑤ 他市アドバイザーに学ぶ研修会

- ・ にかほ市つぼみ保育園参観 9月19日

- ・大仙市大曲中央こども園参観 10月15日
 - ・潟上市追分保育園 11月21日
- 各地区のアドバイザーの実践を参観したり、参考になる意見や具体的実践を聞いたりすることができた。特に、子どもの遊びの姿をとおして、保育者の関わりや園内研修、管理職の園運営について協議できたことは有意義だった。

⑥架け橋プログラム市町村訪問

- ・潟上市架け橋プログラム市町村訪問 12月9日
- 架け橋プログラムに関わる本市の課題や悩みについて、事例を交えながらのアドバイスしていただいた。具体的な指導・助言を1月以降に取り入れるとともに、来年度の事業の改善に生かし、架け橋プログラムの一層の充実を図っていきたい。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和6年)の成果と課題

- 幼保小連携についての職員の意識の向上
- ・「園での育ちや学びを小学校の学びへつなげる意識」の醸成
 - ・相互教育・保育参観や接続期カリキュラム作成に係る協議等を通しての職員間の相互理解の高まり
 - ・子ども同士の交流活動の充実（事前・事後の話合い。相互の「めあて」の共有、「10の姿」を視点にした子どもの育ちの見取り）
- 園内研修の充実と職員の意識の向上（幼児教育アドバイザーの助言・支援等による）
- ・園の実態や、職員の希望を活かした研修内容の工夫
 - ・研修をとおして、主体的に「学び合い」「高め合う」職員の姿や、「保育や子どもの姿」を伝え合う力が育ってきている。
- 架け橋期のカリキュラムの作成・実践
- ・「園の学びを小学校の学びに生かす」ことを意識して「生活科」や「図画工作科」などの質的向上が見られている学校も出てきている。また、園では小学校との交流によって5歳児の「遊び」や「異年齢交流」の充実が見られ、その変化が3歳児・4歳児の遊びにもよい影響を及ぼしている園も見られてきている。
- 小規模保育施設と公立園との連携体制の構築（縦のつながり・横のつながり）
- （縦のつながり）
- ・小規模保育施設と公立園との連携（互惠性のある子ども同士の交流、職員交流）
 - ・0歳～5歳までの切れ目ない支援につながる連携
- （横のつながり）
- ・小規模園同士の連携や情報交換、日常的な子ども同士の交流や、職員の研修への活発な参加
- △架け橋期のカリキュラムの実践・評価・改善をとおしての保育改善・授業改善の推進
- △幼保小連携の推進の要となる小学校の管理職の意識の向上と全職員の共通理解に基づく校内体制づくり
- △保護者や地域との架け橋期の共有